

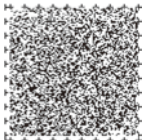
CSW実践 地域づくり事例集



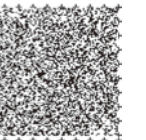
令和7年4月

社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会
地域社協課

〒157-0066 世田谷区成城6-3-10 成城6丁目事務所棟4階
電話 03-5429-2220 (調整係) F A X 03-5429-2204



社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会
地域社協課



もくじ

(頁)

1 はじめに

2 “誰もが孤立しない地域づくり”に向けた世田谷区社協の役割

4

活動事例 01 ネットワーク・子育て支援

＜経堂地区＞ネットワークの強化による地域ぐるみの子育て支援

6

活動事例 02 地域人材・居場所

＜松沢地区＞地域への思い・活動意欲の共有を通じた地区サポーターの活動支援

8

活動事例 03 地域人材・居場所

＜等々力地区＞認知症になっても安心して住み続けられるまちづくり

10

活動事例 04 ネットワーク・生活支援

＜成城地区＞住民と周辺施設との連携による見守りと支えあいのネットワークづくり

12

活動事例 05 居場所・買い物支援

＜上北沢地区・上祖師谷地区＞都営住宅の建て替え・移転後の新たなコミュニティづくり

14 地区担当職員の1週間

16 おわりに

(注・本事例集における所属、役職等は、令和7年3月31日現在のものです)

はじめに

社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会
会長 吉村 俊雄



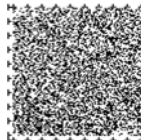
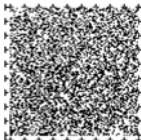
阪神・淡路大震災から、2025年1月で丸30年を迎えました。
この時、全国から駆け付けた数多くのボランティアの取り組みが被災地の復興支援に大きな力となったことは言うまでもありません。わが国では、同震災が発生した1995年はボランティア元年と呼ばれ、今も語り継がれています。

世田谷区内においても、ボランティアは地域福祉における重要な担い手であることは間違いありません。本会事業との関連でも、身近な地域・地区の住民による、各地区社会福祉協議会活動をはじめ、サロン・ミニデイ、子ども食堂などの地域活動や、ふれあいサービス、ファミリー・サポート・センター事業などの個別援助活動、さらに地域に根差し幅広く活動する地区サポーターなど、多くの方々にご活躍いただいております。地域住民による福祉活動への参加が住民相互のつながりを育み、地域共生社会の実現に向けた大きな力となります。

そのような中、本会では、世田谷区の地域包括ケアシステムの強化に向けて、地域住民の参加と協力をいただきながら、地域生活課題の解決に向けた取り組みを進めています。

本事例集では、職員が地域福祉の専門職として、地域住民をはじめ、区や関係機関等との連携による、コミュニティソーシャルワーク（CSW）機能の発揮を通じて、地域生活課題の解決に取り組む支援実践を5つ掲載しています。ぜひご覧いただき、地域福祉の主役である地域住民の皆さまと共有できれば幸いです。

本事例集がコミュニティソーシャルワーク（CSW）機能への一層の理解に寄与することを期待するとともに、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



“誰もが孤立しない地域づくり”に向けた世田谷区社協の役割

変化する地域社会・・・地域福祉の重要性と社会福祉協議会

- 少子高齢化や核家族化、人口減少といった社会構造の変化などにより、地域社会における人間関係の希薄化が進んでいます。
- さらに、住民の生活課題は多様化・複合化し、問題を抱える方や生きづらさを抱える方などは地域の中で“孤立”しやすく、既存の制度の枠組みだけでは解決が難しくなっています。

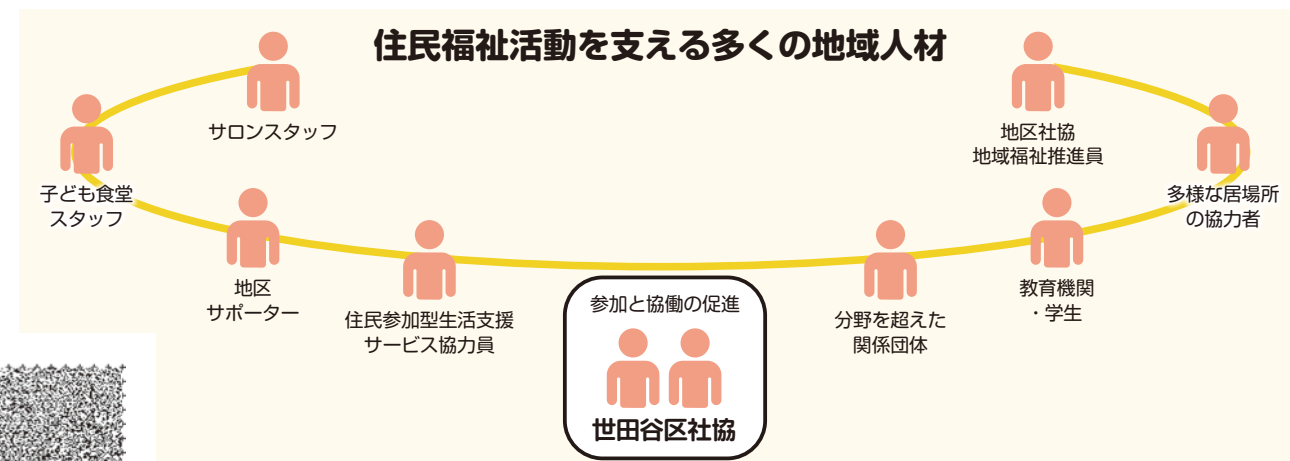
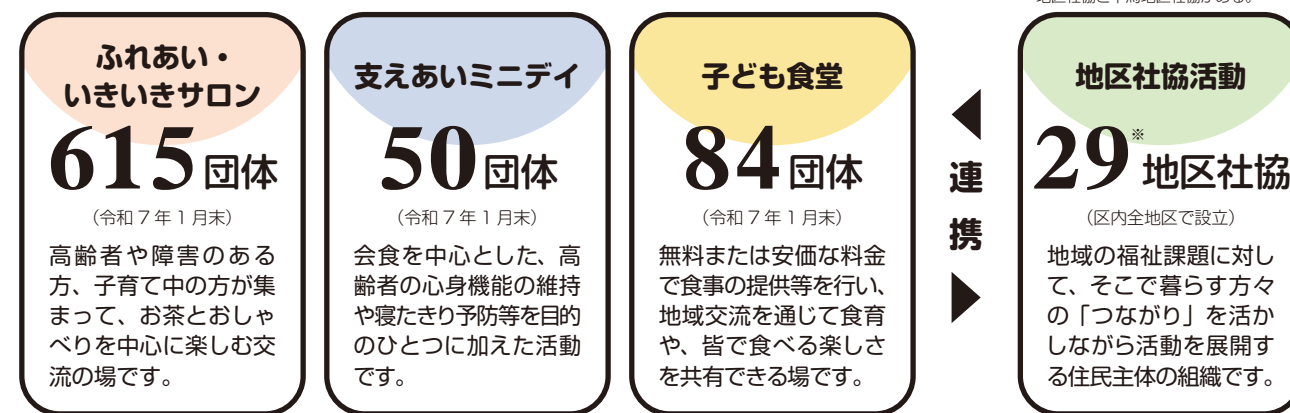


- 誰もが地域社会から孤立せず、安心して日常生活を送るためには、住民をはじめとした多様な主体が分野横断的につながり、身近な圏域で“支えあい”“助けあい”のある地域を共に創っていく地域福祉の推進が重要です。
- 世田谷区社会福祉協議会（以下、世田谷区社協）は、地域福祉の推進役として誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、住民の皆さまとともに、世田谷の地域福祉の向上に努めてきました。

参加と協働による取り組みへの連携支援

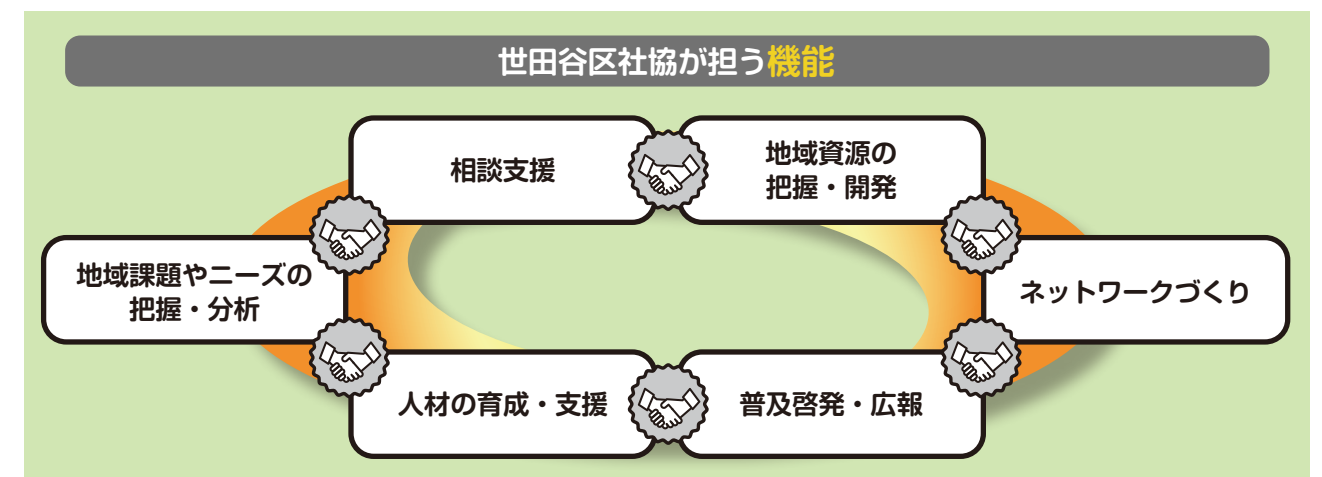
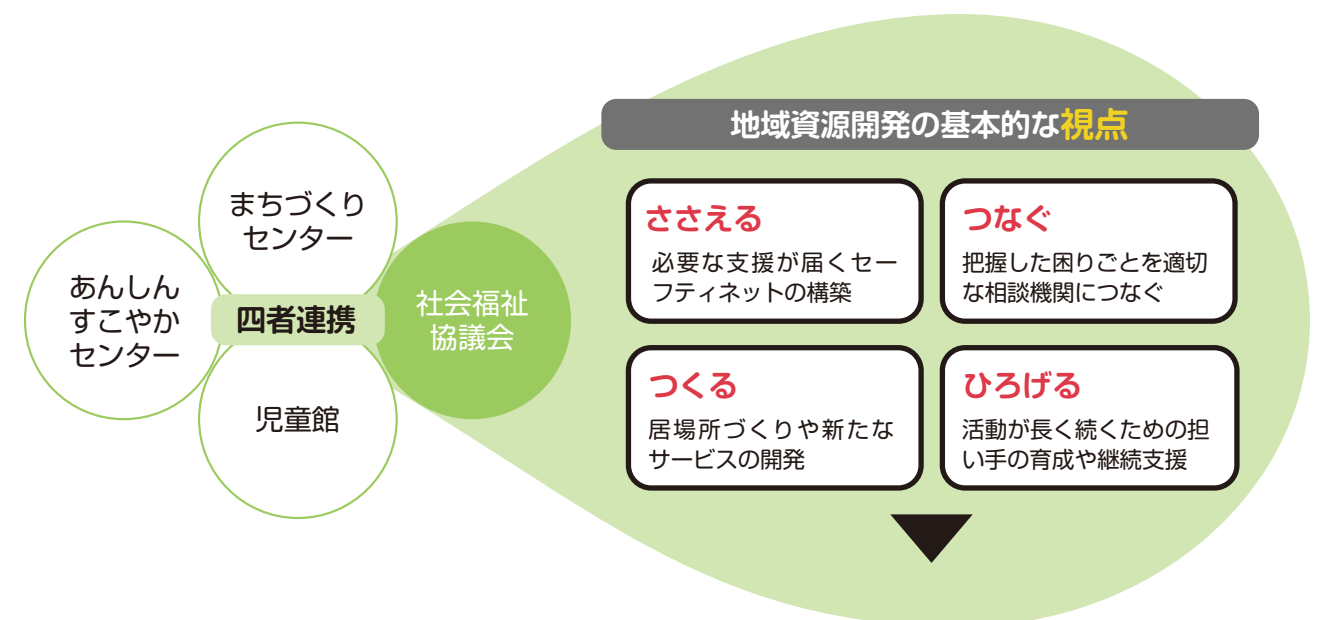
- 世田谷区社協では、住民の皆さまの参加と協働による様々な活動を支援しています。
- 多くの福祉団体との連携を図り、地域内の支援ネットワークの強化・充実に取り組んでいます。

住民福祉活動例



地域共生社会の実現に向けた世田谷版地域包括ケアシステムの地区展開と世田谷区社協の役割

- 世田谷区では、地域共生社会の実現に向け、平成 26 年 10 月より「世田谷版地域包括ケアシステムの地区展開」を進め、平成 28 年 7 月には全地区に「福祉の相談窓口」が設置されました。
- この間、世田谷区社協では、世田谷区より地域資源開発事業（地域福祉コーディネート推進事業）を受託し、高齢者や障害者、子ども・子育て世帯、生きづらさを抱えた若者など、支援を必要とするあらゆる人が早期に支援につながるよう、「福祉の相談窓口」の一角を担っています。そして、まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター、児童館を加えた四者による取り組みを進めてきました。
- 世田谷区社協は地区の担当職員を各地区 2 名ずつ配置し、生活上のあらゆる相談に応じ、専門支援機関へのつなぎや必要な支援を行うとともに、各地区の実情や特性に応じて、支援の取り組みを強化しています。



- 以上の視点に基づき、求められる機能を発揮するため、世田谷区社協の職員は、日々の支援実践の基盤としてコミュニティソーシャルワーク（CSW）の修得に力を入れています。
- 次頁からは、CSW 機能の発揮を通じて地区担当職員が地域生活における福祉課題の解決に向けて取り組んでいる実践を、どのような思いや気づきがあったのか、さらに活動に携わる住民の方からのメッセージも添えて紹介します。

経堂地区

ネットワークの強化による地域ぐるみの子育て支援

地区の概要

人口規模は区内でも上位に位置する。子育て世帯も多く暮らし、保育、教育、医療、保健、居場所など子育てに伴う相談が増えている。



経堂地区 子育て応援マップ



ネットワーク会議の様子



取り組みのきっかけ

- 子育て支援団体から「地区内の他団体の取り組みを知りたい」「地区内の支援団体とつながりたい」という声が寄せられた。
- 「子育て支援者交流会」を開催し、団体間の横のつながりづくりを進めた。
- 子育て中の不安や孤立、その他複合的な課題を抱える子育て世帯に対して、具体的な取り組みを検討するネットワーク機能の強化が求められていた。



キーワード

- ✓ 団体間の連携強化
- ✓ 情報の発信
- ✓ 子育て世帯とつながる機会づくり

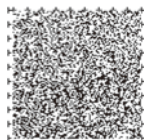


方向性

- ✓ 支援団体間による協働を促進させる仕組みづくりを行う
- ✓ 支援を必要としている人とつながり、必要な情報を届ける
- ✓ 住民からの活動ニーズを受け止め、新たな支援者と居場所を拡充する



課題解決に向けた団体間の協議の場、
連携・協働できるネットワークをつくる！



取り組みのプロセス

全体の流れ

フェーズ
1

支援者ネットワークの強化

団体間の連携強化を目的に、社協地区事務局の呼びかけによるネットワーク会議を定期的に開催。参加団体を拡充し、情報交換の頻度を高めた。

フェーズ
2

商業施設を活用したイベント開催

経堂駅前の商業施設を会場に、子育て世帯が気軽に参加できるイベント（こども天国）を開催。多様な団体に参画を呼びかけ、各団体の強みを生かしたプログラムが実施された。

フェーズ
3

地域資源のマップづくり

地域資源や近隣の公園、お店等のおでかけスポットをまとめた地域資源マップの作成に着手した。また、ネットワーク会議で地区課題の共有、解決に必要な取り組みについて検討を重ねた。

フェーズ
4

多様な居場所の立ち上げ支援

不登校や登校渋りの児童に対し、小学校で朝食を提供する子ども食堂、発達障害のある児童とその親向けのサロン、不登校児の親のカフェなど、多様な居場所が立ち上がった。

社協担当職員の思いと気づき

子ども・子育てに関する団体が協働して課題解決へと取り組む気運を感じた。

地域でPRできる場所がほしい。

情報・相談コーナーを設置し、必要な情報が参加者に行き届くようにした。

転入してきた子育て世帯は孤立しているかもしれない。子育て世帯とつながる機会づくりが必要。

イベント時の配布のほか、関係団体・機関に送付し広報の協力を依頼した。

課題を住民とも共有し、子育ての困り事を我が事としてとらえてほしい。

既存の活動との連携と新たな支援者や活動希望者の創出を同時に取り組む。

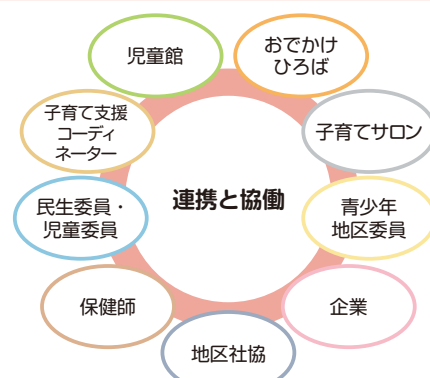
関係者からの
メッセージ経堂地区・青少年地区委員
森岡 美佳さん

いろんな人がいていい

普段は小・中学生が対象ですが、この活動を通して、乳幼児の子育ての悩みも聞きます。幼児期と学齢期がつながることは大切です。

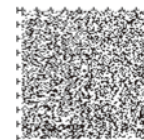
こども天国で子どもの笑顔を見て、みんなが笑顔になれるといいな、と感じます。地域には、いろんな人がいていい、と再確認しました。

子育て支援者ネットワークの構成メンバー



今後の展望

ネットワーク会議の中で議論された課題に対して、地域全体で解決に向けて取り組む体制を構築し「地域ぐるみの子育て支援」へと広げていく。



松沢地区

地域への思い・活動意欲の共有を通じた
地区サポーターの活動支援

地区の概要

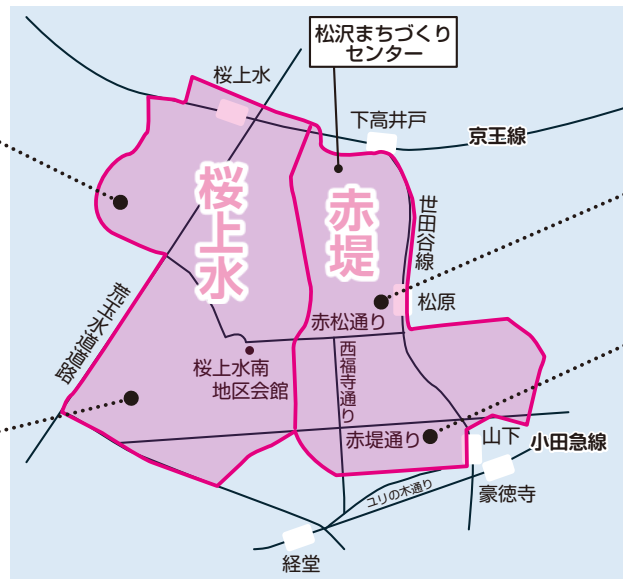
町会・自治会の数（13）が多く、社協会員世帯の割合（55％）も高い。最寄り駅ごとに生活圏域が分散しており、高齢化等により孤立する住民が散見される。



YOROZU サポート CAFE



さくら咲くささの会



松沢地区マップ



赤松おもしろランド



フリースペースゆりの木



取り組みのきっかけ

- 広いエリアのため、通しやすい場の設定が求められていた。
- 「おしゃべり★カフェ」「松沢シニア講座」などの集いの場が、地区社協を中心に複数で展開されていた。
- 地域活動人材である地区サポーターへのアンケートを実施し、地域資源の活用、孤立している住民のつながりづくりといった地区内の課題の解消など、より良い地域づくりに向けた意見と熱意が寄せられた。



キーワード

- ✓ 地区サポーターによる活動への思い（活動ニーズ）の具体化
- ✓ 地区サポーターの主体性を育むミーティング機会の設定（継続開催）
- ✓ 地域資源（活動の場）の発掘

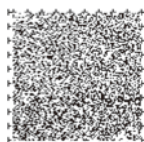


方向性

- ✓ 地区サポーターの相互交流の機会を増やし、地域活動を考えるネットワークを形成する
- ✓ ネットワークを生かして、身近な拠点での住民同士の顔の見える関係性づくりを進める
- ✓ “ちょっとした困りごと”の解消や気軽に相談できる集いの場の活動を展開する



地区サポーター同士の話しあいを起点に、
地域住民が気軽に集える場の創出をめざしていく！



取り組みのプロセス

全体の流れ

フェーズ
1

アンケートの実施

地区サポーターを対象としたアンケートを実施。地域活動についての興味関心（活動ニーズ）や思いを調査した。

フェーズ
2

身近な拠点での展開

定期的集える場が不足していたため、公共施設のほか、自治会・企業などの協力を得て、ミーティング会場となる拠点の確保に取り組んだ。

フェーズ
3

ミーティング開始と具体的な活動

拠点ごとに、課題と感ずること・自分たちにできそうなこと・やってみたいことを話しあい、具体的な活動をスタートした。

社協担当職員の思いと気づき

さらなる地域活動の促進に向けて担い手・原動力となる地区サポーターに呼びかけた。

地区サポーター同士の交流機会を求める声や、地域課題の解決への意欲を把握した。

地区内に活動等の偏りが生じないよう、ネットワークを生かして、4つのエリア毎の拠点の確保に努めた。

地区サポーターの課題認識や目的意識を共有するための工夫として、ミニ講座の盛り込みなどを検討した。

参加者が主体的かつ継続的に参加し取り組めるよう、きめ細かなアプローチを心がけた。

この場が、交流や生活ニーズの把握の場とともに、新たな担い手確保の機会であることを共有した。

4つのエリアで実施する
地区サポミーティングと具体的な活動

●フリースペースゆりの木（赤堤 1-2丁目）

造園会社の会議スペースをお借りして毎月ミーティングを実施。活動に関する情報交換や、男性高齢者の地域参加を促すための体操や歩こう会などの企画を話し合っている。

●赤松おもしろランド（赤堤 3-5丁目）

デイサービスの空き時間を利用して毎月ミーティングを実施するとともに、デイサービスの備品であるゲーム物品などをお借りして、遊びながら交流するふれあいいきいきサロンを開催している。

●さくら咲くささの会（桜上水 1-3丁目）

区立「土と農の交流園」を会場に毎月ミーティングを実施。近隣住民による多世代交流の場づくりを目指したイベントを企画・実施している。

●YOROZU サポート CAFE（桜上水 4-5丁目）

団地敷地内の集会所を会場に、毎月ミーティングを実施。「顔の見える関係づくり」「気楽に相談できる関係づくり」を目指して、古着回収サポートやスマホサポート会を開催している。

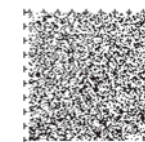
関係者からの
メッセージ赤松おもしろランド
地区サポーター
山田 三枝子さん

仲間がどんどん増えていく

準備段階は、私と事務局だけで打合せをすることもありましたが、令和6年4月のオープンから、会場を提供してくださる“むらもとランド”の村本代表をはじめ、仲間がどんどん増えました。「月1回じゃ足りない！」と参加者からうれしいお声もいただいています。

今後の展望

「地域活動をはじめたい」「地域のために役立ちたい」という声を丁寧に受け止めながら、各活動を地域に定着させる。あわせて、地区社協などと連携して新たな地域人材の確保や活動支援に取り組み、誰もが活動に参加できる地域づくりを進めていく。



等々力地区

認知症になっても安心して
住み続けられるまちづくり

地区の概要

高齢者がいる世帯数、介護保険認定者数は年々増加しているが、3か所の認知症カフェはコロナ禍で活動が停滞していた。



きまま茶屋 開催時の様子



きまま茶屋 スタッフの皆様



取り組みのきっかけ

- 高齢者クラブの方から認知機能の低下がみられるメンバーへの対応に不安があると、相談があった。
- サロンや認知症カフェの参加にためらう方であっても、集いの場に参加したいという思いを持っているとの声があった。
- 認知症のある方やその家族が、気軽な居場所を求めていることを把握した。

キーワード

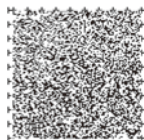
- ✓ 地域活動に関心のある住民との協働
- ✓ 他者への理解と共感を育む学習の場づくり
- ✓ 多世代が参加できる居場所の創出

方向性

- ✓ 住民との協議の場を設け、その思いや希望を活動に反映する
- ✓ 安心して過ごせる居場所を地区内に広めていく
- ✓ 多世代交流を通じた顔の見える関係づくりを推進する



認知症のある方に限らず、誰でも気軽に参加できる
居場所づくりを住民とともに進める！



取り組みのプロセス

全体の流れ

フェーズ
1

住民との意見交換

地区社協や地区サポーター交流会などで地域の課題や活動への意見交換を重ねた。

フェーズ
2

認知症に関する学習会の開催

居場所運営の中心を担う地域福祉推進員や地区サポーター向けに学習会を実施した。

小学生に向けた福祉学習で啓発活動に取り組んだ。

フェーズ
3

通える場の創出

新たな場として、サロンの立ち上げ支援や高齢者クラブと連携した居場所づくりを行った。

ワークショップを取り入れ、子どもから高齢者まで楽しめる内容を検討した。

フェーズ
4

多世代が集まれる場へ

多機関連携の取り組みとして、地区サポーターなどの協力を得ながら多世代の居場所を創出した。

社協担当職員の思いと気づき

住民の声を直接聞くことで、真に必要とされている活動を把握する。

認知症のある方とその家族が参加できる場が必要。

受け入れ前に支援者が認知症への理解を深める機会をもつ。

認知症への理解を多世代に広めていくことが必要。

認知症をテーマとした居場所づくり検討会を立ち上げ、具体的な取り組みについて協議した。

情報の届け方や気軽に参加できる工夫が必要。

運営主体は、地区サポーターなどの住民にお願いし、持続可能な体制づくりを心がける。

交通の利便性や公共的な場所であることが、参加意欲を高めている。

関係者からの
メッセージ

コロナ禍でもできることを、とサロンを立ち上げました。この活動を通して顔見知りが増え、地域の連携が密になっていることを実感しています（サロンひととき）。

地区事務局は決して「だめ」とは言いません。自分のできることを自由にやらせていただいています。ボランティアの先輩を人生のモデルにできるのも魅力です（きまま茶屋）。

親を看取って、何かやりたくて、あんすこに社協を紹介してもらいました。これほど馴染めるとは予想外でした（きまま茶屋）。

高齢者クラブメンバーだけでなく、自分の健康寿命を延ばしたいと区内各地から、たくさん集まってくださいます（ラジオ体操）。

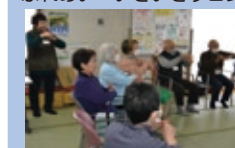
地区内に広がる認知症のある方も含めた
居場所支援の取り組み

地区社協事業



「高齢者お楽しみ交流会」

ふれあい・いきいきサロン



「サロンひととき」

三者連携事業



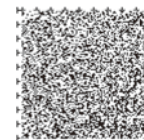
「高齢者交流お茶会」



「ラジオ体操」

今後の展望

認知症になっても、社会とのつながりを絶やすことなく、いつまでも安心して外出ができる地域を目指し、今後も居場所支援の取り組みを拡充していく。



成城地区

住民と周辺施設との連携による
見守りと支えあいのネットワークづくり

地区の概要

高齢化率が区内で最も高く、特に都営団地に暮らす高齢者等の孤立防止が課題であるが、住民同士が出会い、交流できる拠点や機会が少ない。

わくわく
成城 8989 ネットワーク会議の様様

特別養護老人ホームエリザベート成城



障害者施設イタル成城



取り組みのきっかけ

- 資源調査の中で、地区内北部に点在する複数の福祉施設より、「地域貢献を行いたい」との相談を受ける。
- 施設近隣の都営団地に住む住民からは「困りごとを抱えている人が多いが、声を上げられる人が少ない」といった現状を把握していた。
- また団地の自治会長からは「集う場所が少ない」「担い手不足でイベントなどができない」「周辺施設と交流が持てると良い」との声が寄せられた。



キーワード

- ✓ 周辺施設との協働ネットワークの構築
- ✓ 受援力の低下を防ぐ予防的アプローチ
- ✓ 多世代交流を意識した参加機会の創出

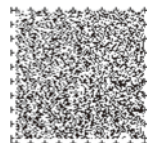


方向性

- ✓ 近隣のネットワークを形成し、定期的に話しあいのできる場をつくる
- ✓ 個別の困りごとの把握に努め、生活課題の解消に向けたサービスを開発する
- ✓ 近隣住民の交流の場を増やし、孤立孤独の解消を目指す



住民が孤立することなく、生活に安心感が持てるような
「支えあえる関係づくり」を促進する！



取り組みのプロセス

全体の流れ

フェーズ
1

協議体の立上げ

地区北部の福祉施設や団地自治会を中心に成城 8989（わくわく）ネットワークの立ち上げを行い、月2回の定例開催とする。

フェーズ
2

生活支援『プチサポ』の実施

メンバーである高齢者施設の職員・地区サポーターが連携し、15分以内の簡単なお手伝い（生活支援サービス）を開始する。

フェーズ
3

相談ができる場の提供

交流をメインとする『お気軽カフェ』を住民が主体となり開催。コロナ禍には、心身に不安を抱えた人を対象に、看護師による個別相談や健康に関する講演会を開催した。

フェーズ
4

多世代交流の拠点・機会づくり

地域の多世代交流の拠点となる子ども食堂への会場提供、保育園等の子ども達からのメッセージカードを活用した心が触れ合う機会を創出した。

社協担当職員の思いと気づき

はじめは少数の団体間で地域課題に関する話し合いを重ね、徐々に賛同する団体を増やし定期開催を目指す。

受援力の低下防止のため8989ネットワーク主催事業として啓発や調査を進める。

生活支援サービスの認知度の向上と気軽に相談できる環境を整えることの必要性を認識する。

団地集会室を活用した地域の方との顔見知りの関係づくりを推進し個別ニーズの把握とともにネットワークの拡充を図る。

福祉施設の協力の下、定期的な会場利用等による地域活動を推し進める。

高齢化・孤立化が進む中、今後は北部だけでなく、南部でも多世代交流の拠点・機会づくりが必要。

関係者からの
メッセージ

左から田中さん（施設職員）今井さん（自治会役員）恩田さん（8989代表・自治会長）佐伯さん（民生委員・児童委員）

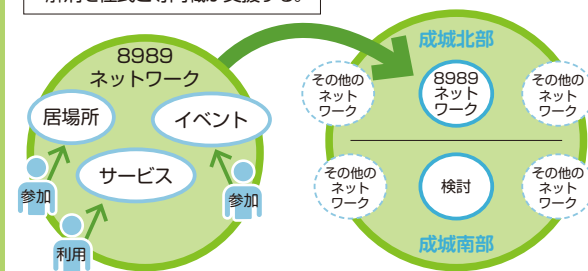
8989に関わって

行事を通して、地域が少しずつ仲良くなってきました（恩田）／柔軟に形態を変えて、理解者・協力者が増えました（今井）／新たなつながりができたことをうれしく思っています（佐伯）／障害者も地域の皆さんと自然に交流する機会が持っています（田中）

見守り・支えあいネットワークの拡大

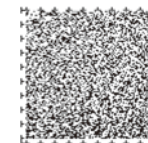
・ イベントや居場所の開催により住民・専門職が出会い、ゆるやかな見守りの場となる。
・ 参加者・利用者の地域生活課題の解消を住民と専門職が支援する。

成城南部にもネットワークをつくることで、見守り・支えあいのネットワークをさらに拡大していく。



今後の展望

地域の拠点として大きな期待が寄せられている施設と近隣住民が良きパートナーとなり、共に支えていけるネットワークを目指す。



上北沢地区・上祖師谷地区

都営住宅の建て替え・移転後の
新たなコミュニティづくり

地区の概要

人口増が進む地区である。特に上祖師谷地区内の粕谷は、子育て世代をはじめとする「転入者」が増えている。



粕谷二丁目アパート



取り組みのきっかけ

- 老朽化などによる団地建て替えのため、八幡山アパートが環八通りを挟んだ粕谷二丁目アパートに移転することになった。
- 生活環境の変化に伴う困りごとなどを相談できる場や新たなコミュニティでの「見守り」や「つながりづくり」を行う必要があった。
- 「福祉の相談窓口」までの距離が離れているため、相談したくても出来ない状況があった。
- 移転前の団地自治会は解散となり、今後のコミュニティづくりが課題となっていた。



キーワード

- ✓ アウトリーチによる転居前・後の不安や困りごとの把握
- ✓ 住民同士の関係の希薄化
- ✓ 生活支援サービスの必要性

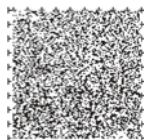


方向性

- ✓ 自治会との連携による居住者支援に取り組む
- ✓ 生活上の困りごとが相談できる場を創出する
- ✓ 居場所・買い物支援を通じて、孤立化の防止を図る



団地内のつながりを豊かにし、
安心して生活ができる環境とそれを支える体制をつくる！



取り組みのプロセス

全体の流れ

フェーズ
1

移転前の不安解消

気になることを話し合う機会の場合や六者協力（※）による出張相談会を定期的開催。その後、移転先では「情報マップ」（粕谷ウエルカムマップ）を作成し配布した。
（※）2地区×三者（まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター、社協地区事務局）

フェーズ
2移転後の支援
自治会の発足支援

旧自治会役員が中心となった検討会議、居住者を対象にした意見懇談会を重ね新自治会の発足に至った。

フェーズ
3

居場所と生活支援サービスの創出

交流機会の定期開催や移動販売および購入した食品での会食会を開催している。

フェーズ
4

子育て世帯の増加に伴う対応

子育て世帯などの若い世代の転入者が増えており、多世代の交流を望む声を把握している。

転居前後の切れ目のない支援

出張相談会
情報マップ
配布担当者や住民の
顔合わせ自治会発足支援
居場所支援
買い物支援新しい
コミュニティでの
住民同士の交流多世代交流
相談できる環境住民、専門職等顔の
見える関係の拡大

社協担当職員の思いと気づき

定期的な出張相談会により顔を覚えてもらうことを意識した。

移転先の土地勘がなく、地域情報が不足している方が多かった。

今までの人間関係がなくなってしまうかと心配の声が上がっていた。

自治会の必要性を、居住者全員で理解・共有する機会をつくった。

出張相談会から関係性を築いていた方々が中心となって、自治会役員を担った。

買い物支援と飲食を通じた憩いの場づくりを同時に進める。

団地居住者に限らない、地域に開かれた居場所や交流の機会が求められている。

新たな困りごとに対応するため、専門職間連携の強化を進める。

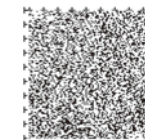
関係者からの
メッセージ粕谷二丁目アパート
自治会長
五十嵐 哲夫さん

「きっかけ」を用意する

新自治会が発足して6年目。移動販売も開始から1年経ちます。自治会では、ごみのリサイクル運動や草取りのほか、カラオケやマージャンの集まりにも声をかけます。外に出たい人はたくさんいます。その「きっかけ」を用意するのも自治会の役割だと思います。

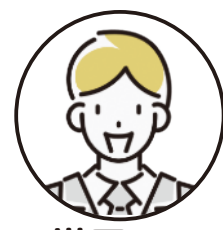
今後の展望

対象エリアを拡大し、より多くの方に参画を呼びかけ、住民同士の関係づくりや仲間づくりを進めるとともに多世代へのアプローチを強化しながら、共生社会の実現を目指していく。



地区担当職員の

1週間



世田さん



谷さん

世田谷区社会福祉協議会の地区担当職員は、5つの地域社会福祉協議会事務所に配置され、28の地区をそれぞれ2名体制で担当しています。普段は、まちづくりセンター内の地区事務局を起点に、福祉の相談をはじめ地区内の集まりや活動の支援など、多種多様な業務を行っています。

月曜日

ネットワーク会議の開催

子ども食堂団体に呼びかけ、ネットワーク会議を開催。団体運営の情報交換や気になる世帯への支援方法などについて一緒に検討します。



今日の主な業務

- ネットワーク会議
- 広報紙の作成
- 地区社協 事務
- 相談窓口対応



そのほか、地区社協関連の会議など、定例で開催するものが多いです。住民をはじめ関係団体や関係機関など多様な方とお会いし、話しあえる良い機会となっています。

火曜日

スマホ相談会

近くの集会所でスマホ相談会を定期開催しています。情報通信機器に詳しいボランティアが中心となり、参加者からのお困りごとに対応します。

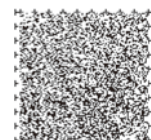


今日の主な業務

- スマホ相談会
- 福祉施設訪問
- イベント情報配信
- 相談窓口対応



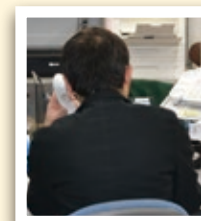
参加者には、「福祉の相談窓口」もPRします。職員も参加しているので出張相談会の役割も果たしています。



水曜日

住民からの電話に対応

スマホ相談会参加者からの電話相談。『昨日もらった福祉の相談窓口のチラシを見て電話した。高齢になり、郵便物の整理や公共料金の支払いに苦労している』お話を聞くと、そのほかにも生活上の困りごとがあることがわかり、訪問の約束をしました。



今日の主な業務

- 電話相談対応
- 活動のマッチング
- 会議資料の準備
- 福祉学習打合せ



金銭管理などの支援が必要と思われる場合は、同じ事務所で従事する『地域福祉権利擁護事業（あんしん事業）』担当者に相談し、連携して支援します。

木曜日

サロン訪問

開催中の高齢者サロンに訪問。サロン運営上の相談のほか、スタッフ・参加者の健康に関することなど、生活上の課題を把握します。



今日の主な業務

- サロン訪問
- 地区社協 会議
- 四者連携会議
- 報告書の作成

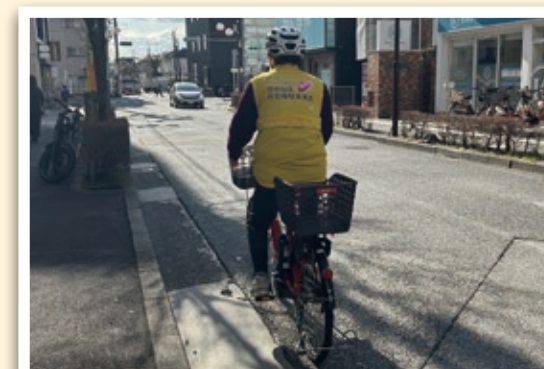
集いの場に赴き、問題の早期の把握と対応に努めています。またスタッフさんとの何気ない世間話から新たな地域情報を得ることもたくさんあります。



金曜日

ふれあいサービスの訪問

ひとり暮らしの高齢者から家事の困りごとについて相談があり訪問。サービスの利用を希望されたため、事務所に戻ってから条件に合った協力会員をお探ししました。

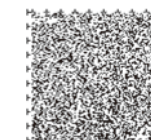


今日の主な業務

- ふれあいサービス訪問
- 個別ケース会議
- 職員ミーティング
- 相談窓口対応



住民による助けあいのサービスだけでは対応できない相談の場合は、ご本人の了解を得た上で、あんしんすこやかセンターへつなぎ、介護保険サービスを紹介してもらうなど、他機関と連携しながら支援を進めます。



おわりに

世田谷区では、世田谷版地域包括ケアの推進の一環として、各地区において、まちづくりセンター・あんしんすこやかセンターに社協地区事務局が加わった三者連携による「福祉の相談窓口」が開設されています。「福祉の相談窓口」では、高齢・障害・子育て・生活困窮・地域活動等、幅広い相談を受け止め、丁寧な相談支援や的確な専門機関へのつなぎ等の機能を発揮しています（H26.10～砧。H27.7～池尻・松沢・用賀・上北沢。H28.7～全地区展開〈※二子玉川の新設により全28地区〉）さらに、令和4年度からは児童館が加わり、四者連携による子ども分野への支援も強化されました。

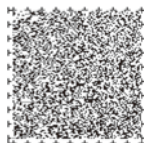
この間、世田谷区社会福祉協議会（以下、世田谷区社協）では、区より地域資源開発事業（地域福祉コーディネート推進事業）を受託し、四者連携により各機関が持つ強みを生かしながら、コミュニティソーシャルワーク（以下、CSW）機能の発揮を通じて、課題を抱えるご本人に寄り添った伴走支援、町会・自治会、民生委員児童委員協議会、福祉活動団体、商店会、福祉関係事業所・施設、学校等との幅広いネットワークと協働による新たな地域資源やサービスの開発、地域活動の担い手の育成などに取り組んでいます。世田谷区社協では、以上の取り組みの強化に向けて、CSWを地域福祉の推進における支援実践の重要な方法及び理論と位置づけ、法人全体で研修機会を設け、その修得に努めています。

これからも、地域住民の皆さまをはじめ、多機関・多職種との連携によるCSW機能の発揮を通じて、ともに支えあう地域社会づくりに貢献していきたいと思えます。

地域を思い、福祉活動に取り組むすべての皆さまに心からの敬意を表しますとともに、今後とも世田谷区社協へのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

令和7年4月

地域社協課長 金安 博明



職員研修の様子

CSW 全体研修（対象：全所属）



CSW 課内研修（対象：地域社協課）



テーマ別研修 『居場所づくり・買い物支援』 （対象：地域社協課）



実務研修 『SNS を活用した広報戦術』 （対象：地域社協課）

